

縁石を活用し歩行者空間を確保

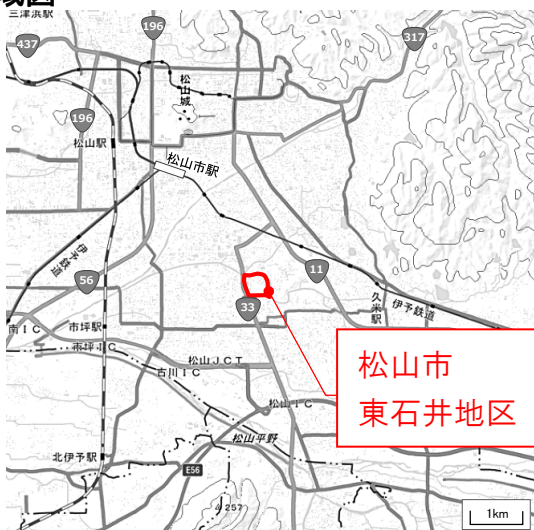


ビッグデータにより地域が危険性を再認識



06.愛媛県松山市
(東石井地区)

広域図



背景の地図の出典: 国土地理院

登録状況	生活道路対策エリア(区域)
対策の内容	ハンブ設置 他
備考	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 抜け道利用が多い上、特に朝夕は、車両の走行速度が高く、住民から対策の要望があった ▶ 通学時間帯には域内進入禁止の規制がされているが、順守されていないと思われるケースが散見され、対策の必要性があった

設置の
特徴

縁石を活用し歩行者空間を確保

ハンプの概要

設置箇所



背景の地図の出典: 国土地理院

設置内容

	内容	備考
設置箇所数	1 箇所(単路部)	
設置時期	平成 29 年 3 月	
ハンプの形状	<ul style="list-style-type: none"> 平坦部の長さ 2m ハンプの高さ 10cm 傾斜部の勾配 平均 5% 	技術基準を参考
構造及び 付属施設	<ul style="list-style-type: none"> アスファルト舗装 路側帯のカラー化 試行設置のため、仮設看板 自発光鋸、ゴム製ポール 	<ul style="list-style-type: none"> 狭さく部を併用 薄層カラー舗装
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハンプ箇所で確実に歩行者空間を確保するため、縁石、夜間点滅する自発光鋸、ゴム製ポールを設置し、歩行者の通行空間をわかりやすくした ◆道路の幅員が変化する箇所であり、狭くなる方向へは注意喚起、広くなる方向へは、減速の効果を狙った ◆レンタルハンプと比較し、設置費用や期間からオーバーレイでの設置を選択 ◆試行の位置づけであるため、既設舗装上に設置(5cmずつ2層で設置)することで、地下埋設物等への干渉がないように配慮 ◆今後の水平展開を見据え、なるべくコンパクトな構造を目指し、国交省の技術基準の各最小値を採用 	

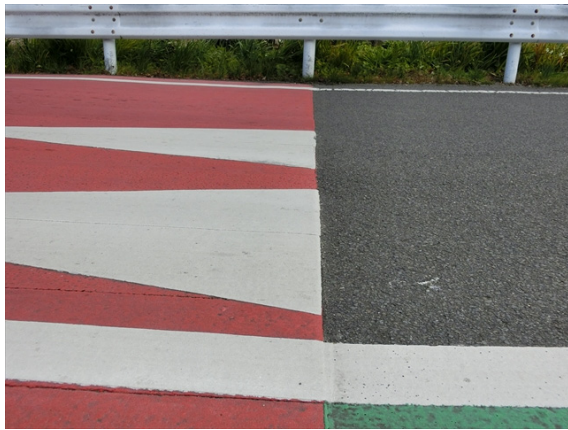
設置状況



概観



狭窄部の併用



既設舗装上に設置(オーバーレイ)



ゴム製ポール・自発光鋳



仮設看板



通行状況

合意形成
のポイント

ビッグデータにより地域が危険性を再認識

対策実施状況と合意形成の概要

対策実施状況 (道路管理者の動き)

合意形成の概要

生活道路対策エリア登録 (2016.3)



設置【試行設置】 (2017.3～)
・単路ハンプ 1箇所

2016.12 地元説明会

- 生活道路における事故対策の必要性
- 東石井地区の現状
- 対策案の概要


Point 他地域の社会実験の事例など複数箇所のハンプのビデオを上映し、理解を深めた

Point ETC2.0 プローブの分析結果を活用することで東石井地区の交通課題を改めて認識、共有することができた

2018.2 地元説明会

- ハンプ設置後の効果検証結果

PDCA の中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える合意形成のポイント 
現況調査 計画策定 <Plan>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 現地踏査 <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2016年8月 参加者 国交省、警察、市 内容 課題の把握、現地状況の確認 ❖ 地元説明会 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 実施日 2016年12月8日 ◆ 参加者 地域関係者 ◆ 提示資料 全国的な生活道路対策の取組背景 東石井地区の現状と課題 対策案の概要 	<ul style="list-style-type: none"> • 地元説明会では、他地域の社会実験の事例など複数箇所のハンプのビデオを上映し、理解を深めた • ハンプの通行状況のみでなく、設置前の通行状況もビデオで見れたのがよかった • ETC2.0プローブデータの分析結果があったので対象箇所の速度や抜け道利用の実態を示しやすかった また、分析結果を確認することで、特に「速度」が高い状況について改めて認識を共有することができた
↓		
対策実施 <Do>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 試行設置 運用開始 2017年3月 	<ul style="list-style-type: none"> • 「試行」の位置づけで設置
↓		
評価 <Check>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 地元説明会 <ul style="list-style-type: none"> 実施日 2018年2月 参加者 地域関係者 内容 ハンプ設置による効果の検証結果 	
↓		
対策改善 <Action>		

合意形成における道路管理者からみた特筆事項

円滑な検討に 結びついた点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 速度状況、抜け道利用状況の客観的データがあったことで問題意識を地域住民とより深く共有。 ◆ 対策箇所の現状、他地域の設置前後の事例をビデオ映像で示すことにより、課題や計画が理解しやすくなった。 ◆ 試行設置としたことで、住民からの合意も得やすかった。 ◆ ハンプの効果を住民と共有することで、ハンプの効果だけでなく必要性も認めてもらうことができた。
考えられる 今後の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地元から1箇所のみでは速度が落ち切らないのではという意見があり、今後、連続設置を考えたい。その中では、設置の合意形成が比較的容易な交差点ハンプも検討したい。